

シロバナハギのさし木に関する試験

吉田 俊一・後藤 利幸

(大分県温泉熱利用農業研究所)

YOSHIDA, S. and GOTO, T.

Studies on the Cutting of *Lespedeza japonica* var. *albiflora* NAKAI

1. 緒 言

ハギは庭園樹木として用いられ、繁殖は株分けや実生によることが多く、さし木は3月に前年生枝12~15cmを赤土にさすのがよいといわれている。

本試験はシロバナハギの本年生枝の6月さしについて行ない、穂木の部位と発根剤利用が発根および生育におよぼす影響を調べたので、その結果を報告する。

2. 材料および方法

試験は下記の2試験からなり、両試験とも1975年6月12日に褐色火山灰土壌(赤土)を用いてさし木しミスト環境下で管理した。用土の理化学的性質は第1表に、ミストの散布間隔・時間は第2表に示すとおりである。

第1表 用土の理化学的性質

pH	真比重	仮比重	固相	液相	気相	最大容水量	圃場容水量	孔隙量
H ₂ O=5.3 KCl=4.3	2.46	0.7	28.5%	42.0%	29.5%	59.5%	68.0%	71.5%

第2表 ミストの散布間隔, 時間

時 間	8~17時	17~18時	18~8時
散布時間/散布間隔	15秒/15分	15秒/30分	停 止

(1) 穂木の部位別さし木試験

170~180cmの本年生枝を供試し基部約20~30cmは使用せず株に残した。区分は枝の先端(茎頂部)から12cmをIとし、次をII, さらに基部に向かってX, XI, XIIとした。穂木の葉数はIが8枚, 他は4枚としたが, Xをすぎて基部ほど葉の無い区が多くなった。水揚時間は6時間とした。供試本数は1区10本の3反復とした。発根および生育調査は1975年7月11日(さし木後29日目)に行なった。

(2) 発根剤利用さし木試験

試験(1)と同様に枝の先端から区分したI, II, III部位を供試し, 発根剤と組合せて試験を行なった。発根剤はIBAとNAd(ルートン)を用い, 濃度はIBAが

50, 100ppm(6時間浸漬), 0.5, 1.0, 2.0%粉剤(6時間水揚後切口粉衣)でNAdは0.4%粉剤(6時間水揚後切口粉衣)であった。対照区は6時間水揚後さし木した。穂木の調整, 供試本数, 反復等は試験(1)に準じた。発根および生育調査は1975年7月7日(さし木後25日目)に行なった。

3. 結果および考察

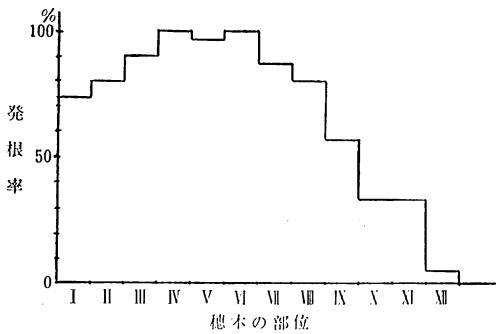
試験(1)の結果は第3表のとおりである。

側枝数以外の項目を分散分析し有意差の認められたものについて5%L.S.D.を求めた。発根率, 草丈, 最大根長, 根数はそれぞれ部位の間に1%水準で非常に有意な差が認められたが, 繰返しの間には有意な差は認められなかった。I~VIIIの間の発根率は73.3~100%と高くこの間において有意な差があるとはいえなかったが第1図のようにIV~VIが頂点となるような山型の傾向を示した。また, I~VIIIの生育はIとVIIIがわずかに劣ったほかはかなり優れ有意な差はなかったもののVにそれぞれの項目の最高の値が来る傾向が認められた。IX~XIIの間は発根率, 生育ともに劣り, 特にXIIは著しく劣った。

第3表 試験(1)の発根率および生育

項目 部位	発 根 率	草 丈	最大 根長	根 数	
				本	側枝数
I	73.3(64.92)	11.9	5.1	11.3	1.3
II	80.0(70.78)	18.3	7.1	17.5	2.2
III	90.0(78.93)	18.9	7.7	16.0	2.7
IV	100(90.00)	21.7	8.7	16.1	2.4
V	96.7(83.85)	22.2	9.1	21.1	2.4
VI	100(90.00)	20.9	8.5	20.0	2.3
VII	86.7(72.78)	20.0	7.3	15.2	2.5
VIII	80.0(68.85)	17.9	4.4	7.8	1.5
IX	56.7(49.23)	14.5	5.3	8.4	1.7
X	33.3(34.23)	16.5	3.6	6.5	1.5
XI	33.3(34.23)	16.2	4.7	3.9	1.6
XII	6.7(8.85)	6.4	1.1	1.0	0.5
5% L.S.D.	(28.97)	7.25	2.92	6.58	

注) ()内数字は Arcsin/百分率 変換による数字



第1図 試験(1)の発根率(%)

試験(2)の結果は第4表のとおりである。発根剤の効果の認められたのは根数についてのみで、他の項目では有意差は認められなかった。根数以外の項目では、部

位の間にも有意差があり、先端より下部の方が優れる傾向が認められた。根数増加に最も効果的な発根剤、および濃度は IBA 2.0%粉剤で、次は100ppm、1.0%粉剤であった。しかし、NAd はほとんど効果が認められなかった。

以上の結果より、シロバナハギは本年生枝6月さしで実用性が高いことが明らかとなった。穂木は先端から80、90cmまでの間なら利用でき1茎から7~8本採れるので大量繁殖も可能となる。発根日数も短かく20~25日で移植できる。さらに、発根剤として IBA 2.0%粉剤を使用すれば、根数の増加が期待される。なお、部位Iのたぎしについては茎葉が軟弱なためさし木後萎凋しやすいので、葉上に水滴のつく程度に管理するとよい。また、着葉数の少ない基部に近い部分の6月さしにおける実用性は低いものと思われる。

第4表 試験(2)の発根率および生育

項目 部位	発根率					草丈				
	I	II	III	平均	5% L.S.D.	I	II	III	平均	5% L.S.D.
処理区分	%	%	%	%		cm	cm	cm	cm	
IBA 50ppm	100	100	100	100(90.00)	N. S.	10.8	14.9	19.9	15.2	N. S.
IBA 100ppm	93.3	96.7	100	96.7(84.95)		10.8	14.9	19.8	15.2	
IBA 0.5%(粉)	86.7	90.0	100	92.2(76.72)		12.3	15.5	20.6	16.1	
IBA 1.0%(粉)	73.3	100	100	91.1(79.63)		10.8	14.4	25.1	16.8	
IBA 2.0%(粉)	73.3	100	100	91.1(79.63)		10.8	15.3	21.1	15.7	
NAd 0.4%(粉)	73.3	96.7	100	90.0(76.14)		11.8	15.1	21.8	16.2	
無処理	100	100	100	100(90.00)		12.7	16.5	21.8	17.0	
平均	85.7 (72.94)	97.6 (84.37)	100 (90.00)			11.4	15.2	21.4		
5% L. S. D.	(10.93)					1.39				

項目 部位	根長					根数				
	I	II	III	平均	5% L.S.D.	I	II	III	平均	5% L.S.D.
処理区分	cm	cm	cm	cm		本	本	本	本	
IBA 50ppm	7.3	6.6	7.3	7.1	N. S.	25.1	23.6	25.6	24.8	6.04
IBA 100ppm	7.1	7.2	8.6	7.6		25.1	30.2	29.5	28.3	
IBA 0.5%(粉)	8.1	6.0	8.4	7.5		23.1	19.1	23.3	21.8	
IBA 1.0%(粉)	8.8	6.2	10.7	8.6		29.0	19.3	34.7	27.7	
IBA 2.0%(粉)	8.8	8.7	9.2	8.9		33.0	32.8	40.9	35.6	
NAd 0.4%(粉)	6.4	5.9	8.5	6.9		14.7	14.7	19.7	16.4	
無処理	7.6	7.3	8.4	7.8		18.8	23.2	20.8	20.9	
平均	7.7	6.8	8.7			24.1	23.3	27.8		
5% L. S. D.	0.92					N. S.				

注) () 内数字は Arcsin√百分率 変換による数字